

ダビデとの神の契約

「あなたの家とあなたの王国とは、わたしの前にとこしえまでも続き、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。」(サムエル記第二 7:16)

ダビデとの契約の本質

約定(コントラクト)は法律上の一つの同意であるけれども、契約は複数の関係者による「終生協定」である。神が契約を結ばれるときには条件は神の約束、標準、規則を土台としている。このような契約の恩典は、神に対する人々の服従、信頼、忠実さにかかっている。

(1) サムエル記第二7章には「契約」ということばが実際にはないけれども、神がここでダビデと厳粛な「終生協定」を結ばれたことを明らかにしている。たとえば詩篇89篇3-4節で神は「わたしは、わたしの選んだ者と契約を結び、わたしのしもべダビデに誓っている。わたしは、おまえのすえを、とこしえに堅く立て、おまえの王座を代々限りなく建てる」と言っておられる(→詩89:34-36)。神の民を治める王座はダビデの子孫によって永遠に確立されるというこの約束は、サムエル記第二7章(特に16節)で神がダビデへ約束されたのと同じである。後にサムエル記第二の中でダビデ自身、神がダビデと結ばれた「とこしえの契約」について触れているけれども(Ⅱサム23:5)、それは7章を指していることが確かである。

(2) 旧約聖書の契約に適用されている二つの原理がここでも明らかである。それは神だけがこの契約の約束と義務を定められたこと、そして人々は従順な信仰をもってその条件を受入れるように期待されていることである(→「アブラハム、イサク、ヤコブとの神の契約」の項 p.74, 「イスラエル人との神の契約」の項 p.351)。

(a) ダビデとのこの契約の取決めの中で神はダビデの息子ソロモンの王国を確立することを約束された。そしてソロモンが主の家、神殿を建てる人になる(Ⅱサム7:11-13, →「ソロモンの神殿」の図 p.557)。

(b) 同時にダビデの家、ダビデ王朝が永遠に続くという神の約束が条件付で与えられている。それはダビデとその子孫が忠実に従うかどうかである。この契約が永遠であるということは、治める人々が神に忠実に従順である限り、神はダビデの子をエルサレムの王座につけるつもりであるという意味である。

(3) 次の400年間にわたってダビデの家系はユダの王座に断絶しないで続いた。ユダはイスラエル民族の分裂の結果生れた南部の王国である。分裂は最初サウル王の死後に起き(2:-4:)、次にダビデの息子のソロモンの死後に再び起きた(「イスラエルとユダの王国」の地図 p.570)。ユダ王国という名前は南王国の大部分をユダ族が構成していたことからつけられた。ユダ族は神が契約の民を守り、永遠の王権を確立し、後にメシヤを送るため用いられる部族である(⇒ゼカ10:4, マタ2:6, ヘブ7:14, 黙5:5)。ユダ王国の首都はエルサレムにあった。けれどもよこしまなマナセや、ヨシヤのあとに治めたユダの王たちは神に逆らい偶像を礼拝し神の律法を守らなかった。そこで神はついに王座からおろされた。そしてバビロンのネブカデネザル王がユダの地に侵入してエルサレムの町を攻撃し(前586)、最後に神殿とともに町を破壊する(前586)のを神は許された(→Ⅱ列25:, Ⅱ歴36:)。それはイスラエルにとってエジプトの奴隷のとき以来初めて、外国の支配者の支配を受けることだった。

イエス・キリストとこの契約

ダビデとの神の契約には条件付ではない部分があった。神は終りの日にダビデの王国を永遠に確立されると言われた部分である。

(1) 神の約束の重要な点はメシヤ(「油そそがれた方」、救い主)、永遠の王が、ダビデの家系から来られるということだった。この王はただイスラエルだけではなく、神に従うあらゆる国の人々を治めるのである(⇒イザ9:6-7, 11:1, 10, ミカ5:2, 4)。この人はベツレヘムの町から出て来られて(ミカ5:2, 4)、その支

配は地の果てにまで及ぶ(ゼカ9:10)。そして「主は私たちの正義」(エレ23:5-6)と呼ばれ、罪からの救いをもたらしてくださる(ゼカ13:1)。ダビデへの約束の成就是、ダビデの家系の神を敬う女性であるマリヤに天使ガブリエルがイエス・キリストの誕生を告知したことによって始まった(ルカ1:30-33, ⇒使2:29-35)。

(2) ダビデへの神の約束は、エバの子孫によってサタンが敗北することを予告した創世記3章15節にある約束を拡大したものだ(→創3:15注)。それはまたアブラハムとその子孫に与えられた契約の継続でもあった(→「アブラハム、イサク、ヤコブとの神の契約」の項 p.74)。

(3) この約束の成就是には、キリストが死からよみがえり、神の右という当然の場所(使2:29-33)、天での最高の名誉の場所に上げられることが含まれていた。そこからキリストは今、王の王、主の主として治めておられる。高く挙げられた主としてのキリストの最初の任務は聖霊を注ぎ、弟子たちの中に住み、福音を広めるために力を与えることだった(使1:8, 2:4, 33, →「聖霊の働き」の表 p.2187)。

(4) キリストの王としての統治の中には、罪から離れてキリストを救い主(罪を赦す方、人生の導き手)、主として受入れ、聖霊を受けるようにというすべての人に対する招きと召しが含まれている(使2:32-40)。

(5) キリストの永遠の王権には次のことが含まれている。(a) 神の国に対する現在の支配権(→「神の国」の項 p.1654)と教会のかしらであること、(b) 地上の諸国民に対する未来の千年王国(1,000年間)の支配(黙2:26-27, 20:4)、(c) 新しい天と新しい地での永遠の王国(黙21:-22:)。

サムエル記第2章のヘブライ語原文と和訳の対照表。和訳は、サムエル記第2章の和訳(新約聖書)に基づいている。ヘブライ語は、サムエル記第2章のヘブライ語原文(新約聖書)に基づいている。

サムエル記第2章のヘブライ語原文と和訳の対照表。ヘブライ語は、サムエル記第2章のヘブライ語原文(新約聖書)に基づいている。和訳は、サムエル記第2章の和訳(新約聖書)に基づいている。

サムエル記第2章のヘブライ語原文と和訳の対照表。ヘブライ語は、サムエル記第2章のヘブライ語原文(新約聖書)に基づいている。和訳は、サムエル記第2章の和訳(新約聖書)に基づいている。

サムエル記第2章のヘブライ語原文と和訳の対照表。ヘブライ語は、サムエル記第2章のヘブライ語原文(新約聖書)に基づいている。和訳は、サムエル記第2章の和訳(新約聖書)に基づいている。